

滿洲事變の渦中より

二八二



滿洲事變の渦中より

混成三八旅團野砲兵第二十五聯隊
第五中隊長 陸軍砲兵大尉

田 中 次 郎

岩田堯親君が凍る筆を呵しての滿洲からの原稿が紙面の都合で掲載出来なかつたのは誠に遺憾である。本稿は岩田君の屬する中隊長が右原稿の蛇足と自ら題して書かれた貴重な體驗録である。一には是を通して岩田君の奮闘を偲び、他方滿洲への認識をより一層深からしめる意味で、失禮乍ら茲に掲載する事にした。(記者)

岩田君が中隊長もせひ一つ書いてくれと言ふ、もう其れ以上書く必要はないよと答へたものゝたつての懇望に蛇足を付して讀者諸君のお目をわづらはす事にした。何卒御容赦を願ひたい。

滿洲事變勃發以來既に一年に垂んとし之れに参加しつゝある兵力は五ヶ師團を下らない、極寒聲も凍る互寒の候も炎暑焼くが如き三伏の候も岩田君の書いた如く兵士は不眠不休の努力を續けつゝある——只御國の爲に——其の涙ぐましい精勵に對して私は何んと言つて感謝していいか誠に其言辭を知らない。翻つて自己を顧みるとき慚愧の至りである。即ち一面波、烏吉蜜河の戰鬪以來私の不徳非才の爲に二名の部下を殺し七、八名の負傷者を作つた事は何と言つても申譯ない事だと思つて恐縮に堪へない次第である。只でさへ少い編成の中隊であるのに之が爲に約六分の一を失つた事になる、之から先又此の如き事——我忠勇なる陛下の赤子を殺すやうな事——がありはせぬかと杞憂に堪へないものがある。敗軍の將兵を語らずで、戰の話は御免を蒙りたい然らば軍人に戰の話を除いたら話はな

いぢやないかと言はれるかも知れんが御かど違ひでもこの事だけを申上げて責をふさいで置きたいと思ふ。

今や滿洲は蜂の巢をついたやうな状態だ、而して滿洲國人は何が何にやらわからずに「喜びを強いられ」つゝある。張學良は尙依然として滿洲國擾亂の意志を捨てず、世界各國も亦舉つて滿洲國の成長を喜ばず、加之日本自身も不景氣と農村問題其他にわづらはされて其全力を滿洲に用ゆる事が出来ない状況の下にある。

此の如く滿洲國は建設せられ日本軍駐屯地に於ては黃地に赤青白黒四條を画いた滿洲國旗は日章旗と共に翻翻とひるがへつてゐるけれども果して何時眞に國家としての体面を保ち得る時が来るか分らない。否体面どころか山のものとも海のものとも未だ見界がつかない状態である、然れども滿洲國家が健全に成長すると否とは我日本帝國の存亡に關する事である故に是が非でも滿洲國家なるものはり立てねばならないのである、滿洲は陸軍の滿洲ではない、況んや政黨の喰物でもない、これぞ我日本帝國の生命の源泉であり、大和民族發展の礎石である。

今や軍人は其功績を誇つたり、其名譽の赫々たるに自ら酔うてゐるべき時ではない、兵は如何なる時と雖も兇器である。

例へば今反滿洲國軍に對して討伐を行つたとする、うまく其討伐が出来ても其軍隊に従軍した所の眷族は言ふであらう私の父は日本軍の爲に殺されたと、其處の住民は言ふであらう私の家は日本軍占領の時に焼かれた、私の兄はその時に傷いたと、而して孫子の末に至るまで日本軍を恨むだらう。兵は最初のものであり、最後のものであらねばならぬ。馬匪賊と雖、反滿洲國軍と雖之皆親愛なる滿洲

國の人民である。將來五族平等、五族融和に妨害あるやうな禍痕を残すことは面白くない。

日滿漢鮮蒙の民族が雜居雜婚眞に融合結成して其國是たる東北の樂園を現出するまでには幾多の困難に遭遇するだらう。幾多の歳月を要するだらう。日鮮人の島國根生も大いに叩き直す必要があらう、滿漢人の蒙も大いに開く必要があらう。而して其指導は誰がやるか？我々軍人が片手間にやるか片手間ぢや出来ない、勿論其柄でもない、實にこの問題こそ滿洲國家の健全なる發達の鍵であらうと信ずる。而してこれは教育と宗教の力に待つ外はないと思ふ。

敢へて言はふ死人のお守をする宗教は私は嫌だ、宗教も亦生きた人間のお守をして第一線に立つて活躍せなければ駄だ。

滿洲の天地は日本より寒い而して暑い、しかし廣い而して處女地だ。滿洲國家は必ずや諸君の腕と脚と頭とに向つて呼びかくるものがあるに相違ない。移民問題等の計畫が進むに従つて切實になつて來ると思ふ。

再言す、滿洲は諸君の活躍を待つばかりでなく其榮枯盛衰は實に諸君の双肩に懸つてゐるものと信ずる。

諸君以て如何となす、此妄言を呈して筆を擱く。失言多謝